

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2872000845		
法人名	医療法人社団 弘成会		
事業所名	ライフ明海グループホーム		
所在地	兵庫県明石市藤江205-3		
自己評価作成日	平成23年5月	評価結果市町村受理日	平成23年7月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-hyogo.jp/kaigosip/infonationPublic.do?JCD=2872000845&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成23年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院である為、急変時や体調不良時日中外来受診、夜間は当直医の診察が受けられる。ホーム内での生活はゆったりとしていて一人ひとりのペースに合わせて穏やかに日常生活を送れるよう支援している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

隣接の藤江小学校から児童の声が聞こえる、林崎松江海岸沿いにあるグループホームである。明海病院、介護老人保健施設ライフ明海等が同医療法人内にあるため医療面、保健面、福祉面と大きな安心と利便性がある。職員は同法人内から配属されることが多く、認知症ケアに追随した対応が行われている。又、入居者は同法人内の通所リハビリを利用したり、ホーム内での体操やレクリエーションを継続することにより、日常生活動作の自立支援が叶っている。ホームは大きな法人内の一事業所として、全ての面で協力が得られるところが代え難い長所であるが、反面、地域密着型サービスとして、家族や地域とお互いに信頼関係を築きながら入居者を支える、ホーム独自の特色作りに挑戦してみようことを期待したい。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および第三者評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて実践に向け取り組んでいるそれぞれの家族の事情をふまえて出来る事の支援をしている。	4項目からなる、理念(運営方針)を事業所内に掲げ、管理者と職員は日々の生活の中で実践している。この理念(運営方針)は、利用者と職員で分かり易いものに作られたものである。又、今年目標として「その人らしさを引き出す」をも掲げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	立地条件が不利な為、日常的にはないが交流が途絶えないようにしている	自治会には入会していないが、法人と自治会の繋がりは深く、グループホームもその中の一つとして、ふれ合い夏祭り、ボランティアの受け入れ、各種学生の実習受け入れと地域交流や地域貢献を行っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体の勉強会、家族会等を通して行っている		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	委員や家族からの意見や要望等をサービスに活かすよう心掛けている	法人全体で、22年度は4回の運営推進会議が行われた。ボランティア団体代表や認知症家族の会、民生委員等の参加が得られている。民生委員は自治会役員や老人会役員も兼ねられており、地域の情報を連絡してくれる。	法人全体の運営推進会議に参加を進めることから始めて、ホーム独自のものとなるよう、何かしら工夫してもらいたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは連絡を密に取り、協力関係を築くように取り組んでいる	23年4月からは、グループホーム連絡会に参加したり、ケアマネ会合に参加し、市町村との連携に努めている。又、家族の代行として、高齢福祉課と連絡を取り合うこともある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを実践している	法人で開かれる研修に、グループホームから2~3名の職員が参加しホーム内で伝達講習を行っている。マニュアルを都度、確認しながら、玄関の施錠を行わないことを含め、身体拘束をしないケアを実践している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めている	法人で行われる虐待防止についての研修に参加し、防止に努めている。	

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はしている 必要性のある利用者には活用できるよう支援している	過去に成年後見制度を活用された利用者もいた為、管理者や職員は理解し、事業所内にも制度についての掲示を行い相談の窓口となっている。認知症実践者研修に参加することで、更なる理解に努めている。	
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所に関わらず相談する機会を設け、本人及び家族等に十分説明し理解と納得を図っている	現在の入居者9名は、同法人の病棟や介護老人保健施設からグループホームに入所されて来られた方ばかりである。本人や家族に十分な説明を行っているが、全ての仕組みにおいて理解が得られやすくなっている。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人及び家族等からの意見、要望をその都度職員が聞き話し合いの場を設け対処している	意見や要望は、利用料金を窓口で支払ってもらう折に、都度伺うようにしている。洗濯物の取り扱いで週に2~3回来られる家族もいるので、伺う機会は多い。利用者は家族を通じて要望を外部に表しており、職員は都度相談に応じている。	法人全体で行われる、運営推進会議の議事録やアンケートを不参加の家族にも送る工夫がほしい。長いスパンで家族との信頼関係に努めて、意見が言い易い機会としてもらいたい。
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の気付きを申し送りの中やミーティングの中で意見として出し話し合う機会を設け反映させている	日々の細やかなことも、申し送りノートやミーティングで提案し、共有し合っている。席替えやトイレ誘導では、利用者のケア向上に繋がった。職員は、毎年、法人管理者との面談の機会もある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績等を評価し給与、賞与等に反映 21年度より介護職員処遇改善交付金制度を実施		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内の勉強会、講習、職員一人ひとりのスキルアップに向け資格取得や認知症の研修等進めている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	明石市介護サービス事業者連絡会に参画し同業者との交流を図り、勉強会、研修等を通じてサービスの質の向上に取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ゆっくり話す機会を作り、本人の思いや訴え要望等を聞き、受け止める努力をしている		
16			初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談しやすい雰囲気や環境を作り、家族等の思いや要望をよく聞き、受け止める努力をしている		
17			初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応として、まず必要と思われる支援を見極めるよう努力をしている		
18			本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中でちょっとした工夫、節約、昔ながらの方法等教えたり教えてもらったり、意見を出し合ったりしている		
19			本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日々の様子や現在の気持ち等を家族に伝え、少しでも利用者の思いが叶うよう無理のない範囲で協力をお願いしている		
20	(11)		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族等の希望により、外泊、外出、墓参り、法事、美容院、食事会等協力が得られている	リハビリ科で一緒になる、デイケアや介護老人保健施設の利用者は地域の馴染みの方々が多く、関係継続が出来ている。家族の協力で結婚式に出席したり、墓参りに出かけたり、定期的に美容院に出かけたり出来るため、利用者は喜ばれている。	
21			利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話し合える機会を大切にし、スタッフが見守りを行っている 難聴者にはスタッフがパイプ役となる事で関係が築いていけるよう支援している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も気軽に立ち寄って頂く様声掛けし、相談や近況報告を受けたりしている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望等の把握に努め、言葉に出して表現できない人に対しては表現や動作、日々の行動からくみ取るようにしている	「なんでもメモ帳」を活用して、思いの把握に努めている。入居者は「介護老人保健施設からホームに移り、いつも話しかけてもらって嬉しい」と喜ばれた。又、難聴の利用者にはいつも職員が傍に寄り添い、表情から汲み取るようにしている。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等得た情報はアセスメントに記入し、情報を共有している		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人に声をかけながら、その日の状態を把握する。声のトーンや表情、動作等も含め観察を行い、スタッフはその情報を共有し対応している		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態を本人、スタッフと話し合いながら本人が望む生活を主に介護計画を作成している	3ヵ月毎に、カンファレンスが行われ、介護計画が作成されている。入居時のカンファレンスには、家族に参加してもらい、意向に即したものであるとしている。又、看護師の意見を聞きながら、本人本位となるように作成している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等は個人のカルテの介護記録に記入し情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院併設老人保健施設と介護保険サービスを複数運営しているのもその時々々のニーズに対応できている 柔軟な支援やサービスに取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的又は不定期にボランティアグループ等に来所してもらい、利用者や家族は交流を楽しみにしている		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を希望する場合は、診察等を受けやすいよう配慮をしている	入居者全員が、同法人の病院がかかりつけ医となっているため、スムーズに受診支援が行われている。2名の入居者は家族の協力を得ながら定期的に専門医の受診を行っている。2週間に1度、ドクターによる往診と毎週の訪問看護の支援がある。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師による健康チェックを実施し、利用者自ら不安な事等相談し助言をもらっている		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人内の地域連携室を通して行っている	入退院時の連絡や調整は、同法人内の地域連携室が担っている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	段階において、何度も話し合いの機会を設けている	過去に看取りを行った経緯はないが、入所時に「看取り介護についての同意書」で、利用者と家族に説明が行われている。重度化に伴い、段階的に都度話し合いがおこなわれている。同法人の病院と介護老人保健施設が大きな安心となっている。	
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルがあるのでマニュアル通りの対応を行っている		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜勤者対象の防火訓練と利用者も一緒に避難訓練も行い、スプリンクラーも設置している	夜間の火事災害の際は、同法人内の応援が頼める体制となっている。スプリンクラーの設置も安心の一つである。	法人で地域の連絡網の作成の案が出ているので、是非実現して貰いたい。この機会に、5分位に位置する貴崎分団や地域との協力体制が得られるよう声掛けをしてもらいたい。

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの対応に気をつけている その人に合った声掛けを工夫している	人格の尊重や誇り、プライバシーは、排泄の援助場面で特に配慮している。大きな声で排泄に関する言葉掛けはしない、汚染時はさりげなく交換することをおこなっている。又、認知症利用者の間違いをフォローするなど配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合せた意思決定の場面を作るようにしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きなスケジュールはあるがあくまでも利用者本人の希望に添うよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔で季節に合った衣類を着てもらえるよう、さりげなくアドバイスをしている		
40	(19)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの持てる力を活かしながら行っている 疲れたり、負担にならないよう配慮している	朝食と夕食は法人で作られた物の盛り付け等を手伝っている。昼食は、献立作りから、調理まで利用者の意見や力を得ながら、食事作りが行われている。昔ながらのおはぎやお団子が人気で、おやつ作りも行われている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士、看護師と相談し、一人ひとりに合った支援をしている 夏場は特に水分補給を促している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	習慣として身につけている人、声掛け、見守りが必要な人、介助が必要な人等、その人に合った支援をしている		

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	便通の薬の調整、定期的なトイレ誘導等、その人に合った支援を心がけている	本人のパターンを把握し、支援することで、リハビリパンツの方は数名いらっしゃるが、オムツ対応の利用者はいない。高齢の利用者もトイレに近い環境となったことで、排泄の自立へと向上できた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表で確認し、医師、看護師と相談しながら、飲食物の工夫、水分補給、運動、マッサージ等でその人に合った支援に努めている		
45	(21)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日はあらかじめ決めているが、順番はその日によって違う 一人ひとりゆっくり入浴してもらっている 足浴や清拭も行っている	週2回の入浴支援が行われている。シャワー浴や就寝前の足浴も希望の利用者に喜ばれている。ゆず湯等の季節浴も利用者の楽しみでもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠不足だったり、疲れた時は居室で横になったり、早目に就寝したり、一人ひとりの状況に応じた支援をしている		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	少しでも変化に気付いたら、母体病院医師、看護師、訪問看護師に相談し対応している また、その記録も記入している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や裁縫が得意な人、歌が好きな人、絵画や書道が好きな人等楽しみごとを活かせるよう、その人に合った支援をしている		
49	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と一緒に買い物、食事、ドライブ、日帰り旅行等の支援 散歩や中庭での日光浴もしてもらっている	日常的には、夕方のごみ捨てを利用して、散歩が行われている。事業所から出かける明石の資料館や舞子プロムナードが利用者に喜ばれた。家族の協力で、淡路温泉や正月の外泊等の支援も行われた。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>おこづかい程度に所持されており、日常必要な物や買い物ツアーの時の購入品の代金など支払う時に支援している</p>		
51			<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の家族等の面会が多い為利用する人は少ないが電話をかけたい人は詰所からかけてもらう</p>		
52	(23)		<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関先には、休める椅子を配し、食堂には花が活けてあり、デイルームは自由に使える、マッサージ機も好きな時に使用できる</p> <p>新聞も自由に読んでもらっている</p>	<p>食堂とは別部屋となっているデイルームが、利用者のくつろぎの場所となっている。新聞を読んだり、マッサージ機を使用しながらうとうとされたり、作りかけの作品を作ったりと思いいい思いに過ごされる環境がある。又、玄関に活けられてある花は、利用者に人気がある。</p>	
53			<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用空間はドアがいつでも開いていて、自由に使用できる状態になっている</p> <p>一人で色塗りしたり、折り紙、写経、数人で雑談など思い思いに過ごしている</p>		
54	(24)		<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室内での動きの妨げにならない程度に、使い慣れた家具、時計、絵等置いてもらい、落ち着いて居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>居室には、保冷庫やテレビ(リース)、ポータブルトイレが持ち込まれ、居心地良い工夫がされている。壁には、写真や貼り絵等で潤いと家族との繋がりが感じられる。</p>	
55			<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>一人ひとりに合った支援を心掛けできる事を継続して行えるよう、工夫しながら対応している</p>		